

第5回むさしのまちづくり
シンポジウム
まちづくり研修旅行(報告)
協議型まちづくりの提案
部会報告
マドンナを訪ねて
まちづくり活動日誌

第5回むさしのまちづくりシンポジウム
「むさしの」の新たなまちづくりを目指して
感性工学によるものづくり、まちづくり

2月4日(土) 商工会館市民会議室において、第5回むさしのまちづくりシンポジウムを開催しました。今回は、連続シンポジウム『「むさしの」の新たなまちづくりを目指して』の第3回目です。広島大学名誉教授で現在は広島国際大学教授をされている長町三生さんに「感性工学によるものづくり・まちづくり」について講演いただきました。

先生に5年前にお会いしたときに感性工学でまちづくりをやってみるとおっしゃられて、それ以来ずっと当会にお呼びできたらと考えていました。この日しか予定がつかないという超ご多忙な中、私たちの為に来ていただきました。寒波再来の中でしたが会員や一般の方を含め、50名以上参加いただきました。



先生は若いころ心理学、医学、工学を学び、その後人間工学にその研究分野を広げ企業の品質管理などの指導を行い、その後アメリカのミシガン大学に招かれ車づくりの分野で研究なされました。

その後企業の商品開発にとって重要な「ニーズ」を具現化するために「感性工学」という分野を自ら開発し、(感性とは感情やイメージなど)それは世界でも日本語の「KANSEI Engineering」となって広がっており、欧米ではユニバーサルデザインを超えるものとして認知されつつあるそうです。

身近なものでお話しするとマツダの名車と知られている2人乗りスポーツカーのユーノスロードスターで「感性工学」を使って若者が「乗りたがる車」を作りブランド名を一気に上げました。

会員募集中

『市民まちづくり会議・むさしの』は、だれでも入会できます。お問い合わせは本会事務局へどうぞ

またワコールの下着においては女性の美しくなりたいというニーズにこの感性工学をつかってどこをどうすれば欲している形になるかを研究し、普通100万個売ればヒット商品の世界で1500万個の驚異的売り上げ数字でワコールを再生させました。「よせてあげて」のgood-upブラです。

冷蔵庫において今は常識となった冷凍室を下に中央にチルドルームを配置した形を、一度は常識はずれ過ぎるためお蔵入りとなりそうなところをシャープの社長がトライして大ヒット商品が生まれました。これも全て長町先生の「感性工学」のおかげです。(写真下)

先生は日本ではほんの2、3人しか持っていないCPE(certified professional ergonomist)(人間工学専門家国際資格)という資格をお持ちです。

近い将来CPEの認定がないと海外へモノを輸出できなくなるかもしれません、というお話でした。

先生はまちづくりにおいても感性工学を応用したいと考えており、いくつかの事例を研究しながら応用範囲を広げております。スライドを使っての事例研究紹介では、まず広島県瀬戸内海の島の蒲刈町における参加型施設造りの地元ボランティアや海外から実習生の受け入れによるリゾートの活性化のお話。

パソコンを全世帯に置き、インターネットによる村の活性化を行っている電腦村と言われて

Top freezer
Bottom freezer



いる広島君田村や長浜市の黒壁を取り入れた店舗づくり・まちづくりなど魅力や特徴的な<まちおこし>の紹介もいただきました。

感性工学という分野は人間が関わるもの全ての分野で応用できるそうで、人間の感性を数値化してモノの設計に応用する、数多くのモニタリングをし、それをある指標にプロットします。

感性工学によるまちづくりへの具体的研究例として長野県小布施町や北海道恵庭町のオープンガーデンに見られる代表的な庭の写真を対象にし、座標軸を設定して「良い庭」「悪い庭」に分類し、その要素を抽出しながらガーデニング計画に応用を始めているそうです。

また、まちづくりにおいてもある評価軸を設定し感性工学によるまちづくりへの手法を見つけれらるだろうとの事でした。

(3ページプロット図)(写真サンプル)

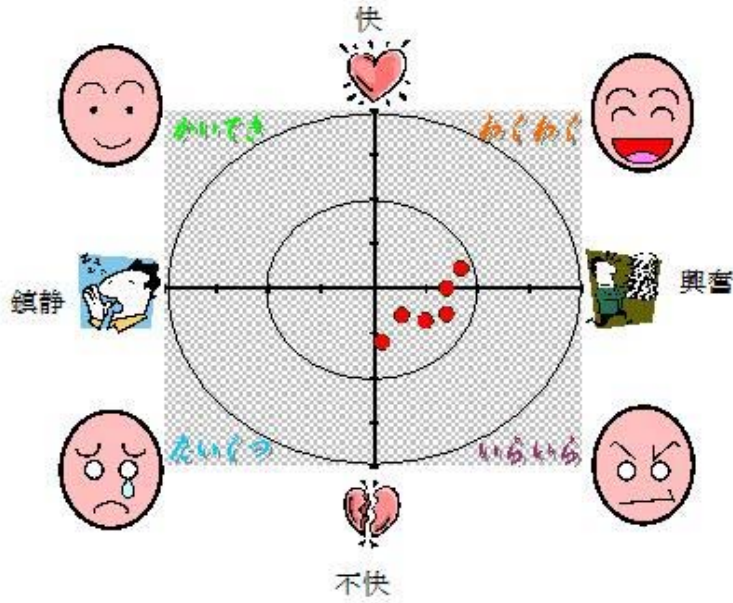
シンポジウム終了後の懇親会にもご出席いただき、今後当会においても長町先生の感性工学に学び、新しいまちづくりの実践に向けて活動の場を広げてゆこうと期待を膨らませて終わりました。

(文:UD部会 山田 朗)

会員募集中

『市民まちづくり会議・むさしの』に参加しませんか。お問い合わせは本会事務局へどうぞ

プロット図



「左上＝快で鎮静はかいてき」、「右上＝快で興奮はわくわく」、「左下＝不快で鎮静はたいくつ」、「右下＝不快で興奮はいらいら」であると考えこの図にした。
また、軸上の点は軸(快、不快、鎮静、興奮)の感情である。

写真サンプル(良い庭園)



(悪い庭園)



まちづくり研修旅行

真鶴町の美の条例

3月11日(土)に市のバス研修補助を受けて平成17年度まちづくり研修旅行を実施しました。今回の目的地は、“美のまち”真鶴町です。人口約9,000人で、伊豆半島の東に位置する真鶴半島の神奈川県真鶴町は、豊かな自然と素朴な生活がある町です。江戸城の石垣が切り出されたなど、石材の豊富な町でもあります。



真鶴町は、東京から近くて風光明媚なこともあって80年代後半のリゾートブームの際には40棟ものマンション計画があったといわれています。この急速な開発に待ったをかけるべく、かつての武蔵野市と同じようにマンションへの水道規制を行ったことは有名ですが、建設抑制を確かなものにするため、平成6年にまちづくり条例を施行しました。このまちづくり条例では、まちづくりの計画や方法、開発や建築のルール、まちづくりにおける議会の役割や住民参加を定めています。

現在、武蔵野市でもまちづくり条例の検討が進められています。今回の企画は、先行しているまちづくりを学ぶために、去年の小布施町への研修旅行に引き続き、南さんに企画していただきました。以下、旅程の順に概要を報告します。

当日は朝7時半に三鷹駅北口を出発し、真鶴町を目指しました。車中では、南さんから7ページにわたる研修資料をもとに、今回の旅程と研修のポイント、“美の条例”と呼ばれている真鶴町まちづくり条例の策定経緯と特徴等を説明していただきました。

いつもながらの分かりやすい説明で40名近い参加者一同、熱心に話を伺いました。

真鶴には10時に到着し、観光ボランティアの露木さん、竹林さんと合流しました。お二方とも全くのボランティアで、真鶴のことを知ってもらいたいということから参加しているそうです。初めに町のコミュニティーセンターである「コミュニティー舞鶴」で真鶴町のまちづくり係長である岩本さんから“美の条例”についてお話を伺いました。

- ・ まちづくりのルールがなくマンションが乱立する動きがあった。これに対処するために行政の主導で条例制定を進めた。

- ・ 条例の主旨を徹底するために11回の市民説明会を行ったこと。人口9千人のまちなのでかなり徹底されたこと。
- ・ 建物の高さや規模を規制しても美しいまちはできない。このため、調和やコミュニティなど8つの項目について美の原則を定め、具体的には美の基準(デザインコード)として定めた。
- ・ 真鶴には歴史的建造物はないが“美のまち”を目指した。“美”とは生活の作法である。たとえば路地には立ち話ができる「人だまり」をつくる。斜面地に家を建てるときは少しずつずらしどこからも海が見えるようにする。



岩本さん(左)によるまちの案内

右は旅行を企画した南さん

- ・「コミュニティ真鶴」は、美の原則に基づいた施設で、地元特産の石や竹を用いて地域の美しさを表した。
- ・これらの美の原則は住民の自宅等を除く全ての建築に適用され、必要に応じて住民説明会や公聴会を行うなど、町民がまちづくりに参加できる手続きが定められている。



マンション建設に抗議する看板の先にあるのが問題の現場

真鶴町は景観法に基づく景観行政団体として登録し、景観計画の策定を進めています。昨年、中学生にまちの美しいところを写真に撮ってもらうという事業を実施し、これを景観計画に反映させているとのこと。

お話の後、真鶴港や、そこに至る町並みを案内していただきました。また、岩海水浴場から、現在、問題となっているマンション建設現場を見上げました。このマンションはバブル期に土地造成され、その建設が中断していましたが一昨年に新たな建築計画が出されたものです。町の定め

た高さ基準を超えていますが建築基準法を満たしており、県から建築許可が出ています。地元では、条例を守る会を結成し、建設させないよう関係者に働きかけています。緑に囲まれ、きれいな稜線があるこの場所に、大きなマンションが建てられるのは確かに違和感があります。法律より厳しい条例の規定がどこまで尊重されるか、“美”を求める住民の意思がどこまで認められるか、武蔵野市でも検討しようとしているまちづくり条例でも課題となりそうです。この後、琴ヶ浜海岸で真鶴名物の磯料理の昼食をとり、真鶴岬の海

辺の潮騒遊歩道、さわやかな木々の香りがする森林遊歩道、真鶴にアトリエを構えた洋画家の中川一政記念美術館、昔はサボテンランドであったお林展望公園などを観光ボランティアのお二人に案内していただきました。真鶴町が守ってきた自然がそこにありました。真鶴からの帰路は、湯河原梅林に立ち寄り、紅白に咲き乱れる満開の梅を満喫することもできました。

今回の研修旅行では、町の生活や作法を守ろうとする真鶴の人たちの強い意思とその実践を知ることができました。また、自然や食事も満喫でき楽しい1日でした。私は20年ぶりの真鶴でしたが、かつての商業観光地としてのいやらしさが消え、住民が作っている観光地としての印象も得ました。今回の旅行を企画した南さん、ありがとうございます。土曜日で、また3月議会での景観計画提出でお忙しいなか対応して下さった岩本さん、熱心にわかりやすく案内して下さいました露木さん、竹林さんにお礼申し上げます。

森 浩（吉祥寺東町）



この稜線を守りたい。景観計画では個人の家でも稜線から飛び出さないようにすること。

都市マスタープランを出発点とした 協議型まちづくりの提案

新たなマンション建設に対して住環境への影響を懸念する声が出ている

吉祥寺東町にある法政大学第一中・高等学校の敷地が不動産開発事業者（以下事業者）に売却されることになりました。また、開発計画について明らかではありませんが、事業者の業態からみてマンション開発が行われることが予想されます。この敷地は、周辺の住宅地に比べて規制が緩いため、大規模建築が法的に可能であることから、周辺の住環境への影響を懸念する声が高まっています。

市は取得した事業者から再度取得する方針であると聞きますが、仮に市が取得できなかった場合、事業者に対しては、宅地開発等指導要綱に基づく市の行政指導が行われ、周辺住民に対しては、紛争予防条例に基づき事業者から計画内容の説明が行われるという、従来の手続きが進められることとなります。

市民が想定していなかった開発

ここで注目したいのは、この敷地は、「武蔵野市都市マスタープラン」に明確に位置付けられていることです。

都市マスタープランは都市計画法により市町村に策定が義務づけられており、武蔵野市は平成12年に策定しています。ここには武蔵野市のめざすまちの将来像とまちづくりの方向性を示すプランとして策定するとして

おり、市と市民が共有するビジョンと位置付けられています。

法政大学第一中・高等学校の敷地は、都市マスタープランの土地利用方針図に、周囲の市立第三中学校、武蔵野美術大学とあわせて、「大規模公共公益施設」として位置付けられており、そこには「行政施設、学校、病院、供給処理施設等の公共公益施設については、現在の土地利用を継続するとともに、必要に応じて拡充を図っていきます。」という方針が示されています。

このような位置付けが直ちに土地利用の自由を制限するものではありませんが、今回のような民間事業者による個別の開発においても無視しうるものではなく、むしろ都市マスタープランの方針を基に、市と市民と事業者の協働によりまちづくりを行っていくことが求められると理解できます。

都市マスタープランを出発点とする協議が必要

このことから、ここでは市と周辺住民及び事業者が、都市マスタープランを出発点として協議方式で開発のあり方、まちづくりのあり方を検討していくことを提案します。

開発を行う事業者は、都市マスタープランに明確に位置付けられた敷地を取得した以上、都市マスタープランの方針をどのように理解し、どのように開発

の中で実現しようとするのかを、示すべきであると考えます。

市は、市全体あるいはこの地域の課題として、いかなる公共的機能が必要とされているのかを示す必要があると思います。

周辺住民は、この地区がどのようなまちを目指しているのかを住民同士で確認し、それを示すことが望まれます。

市民参加で策定したプランを大切にすべき

このように、都市マスタープランの方針を出発点に3者が同じテーブルについて、お互いのまちづくりの考え方を示し、協議する中で、より望ましい開発のあり方を見出していくのです。今回に限らず、開発の早い段階から、協議方式で検討していくための制度が望まれます。

さて、以上のように、都市マスタープランは日頃、市民にとってさほど馴染みはないかもしれませんが、市と市民及び事業者の協働によるまちづくりの出発点として基礎をなす機能を有しています。

それは、法律に基づいて策定された行政計画であることだけでなく、市民と共有するものと位置付けられているからです。





さらに言えば、武蔵野市は策定にあたり市民参加方式を採用し、それに多くの時間を割き多くの市民が策定に参加しました。繰り返しになりますが、このことから、いかなるまちづくりにおいても都市マスタープランを無視するものではないと言えます。

ところで、同じような開発はこの場所に限らず起こる可能性があります。市内には同じように規制が緩やかな地区が存在し、そこでの開発はいずれの場合も周辺住宅地との関係が課題になるでしょう。そのように考えると、多くの市民が、自分たちが暮らす地区のまちづくりについて関心を持つことが望まれます。開発が持ち上がった際に、地区のまちづくりの考え方を示すことができるように、予め検討を行いビジョンをまとめておくことが重要です。その際、一度、自分たちが暮らす地区について、都市マスタープランに何が書かれているのか確認することをお勧めします。

そして、私たちは市民の皆さんのそのような取組みを支援していきたいと考えています。

塩澤誠一郎（吉祥寺北町）

商業地活性化部会報告

新聞雑誌のアンケートなどで常に住みたいまちの上位にある自由が丘。東横線と大井町線が乗り入れるなど利便性の高さも吉祥寺と似ています。商業地活性化部会では2月18日(土)に自由が丘商店街を探訪しました。

自由が丘の人気スポットであるスイーツフォレストに集まったのは11名。このスイーツフォレストは、有名なパティシエたちの店11店が競うビルです。その1店である「スプーンブレッド」でケーキをいただきながらまず、自由が丘の商業地の状況を机上検討。その後、まちに出て土曜日の午後の人の溢れる町並みを見て回りました。吉祥寺の商業地の3～4分の1程度の町並みながら人気ある商店が密集し、売上高の高い商業地であるこのまちは、店主たちの取り組みが活発で、株式会社を

設置してガイドブックの発行や効率的な荷捌きを進めています。また、様々な来訪者のための地図が用意され、たとえばペット入店可のお店を示したワンちゃんmap、イタリアンやフレンチなどのレストランを示した洋食屋さんmapなどがあります。

踏切があって交通が混雑しているという問題点はありますが、特に若い人に人気がある店が多く、活気があります。

発信力のあるこうしたまちの取り組みを市内の商業地活性化の参考にしたいと考えています。

マドンナを訪ねて

「割烹・大浜」浜田久美子さん

武蔵野の地で頑張っている人、熱い人、夢に向かってる人を訪ねて、紹介しています。

好評のシリーズ第四回目は、旧三越の東側地区にある割烹・大浜の若女将、浜田久美子さんです。カウンターと広いお座敷のある明るいお店で、取材の日は金曜日ということもありお店は大盛況でした。

- このお店を出されたきっかけは？

元々は主人の両親が八幡町で魚屋をしております、それから数えますともう50年になります。ここ「大浜」は主人が取り仕切り、八幡町の「魚はま」

は私と主人の両親でまかっています。八幡町の「魚はま」は、宴会・冠婚葬祭の席など、大きい席を中心に営業しています。お客様のご要望があれば大型バスでも送迎しますよ。主人とは知り合いの紹介で24



歳の時に結婚しました。それ以来、お店と子育てに奮闘した毎日でした。2人の子供は主人の両親が育ててくれたようなもので、そのおかげで素直に元気に育ち、こうして私も楽しく働いています。本当に義父母には感謝の気持ちでいっぱいです。

- お客さんと接することが多いご商売ですが、その魅力とは？
実家も商売をしていたからか、お客様と接することが大好きです。お客様に喜んでいただけることが私の喜びで、お客様の喜んでる姿を見ることが一

番の幸せです。

お店の自慢は、料理もそうなのですが、メンバーも自慢させてください。皆が力を合わせて盛り立ててくれ、いつもニコニコ楽しく仕事をしてくれることが本当にありがたいと思っています。

- どんなお店にされたいですか？

大勢でも少人数でも楽しく気持ちいい時間を過ごしていただける、味もよく人もいい、そんなお店にしたいですね。そして今、お客様を向かえるだけでなく、お客様の元へ料理やサービ

スをお届けする「出張パーティー」にも力を入れていきます。たくさんのお客様にそれぞれ、満足、納得していただけるよう努めています。

- 最後に吉祥寺の印象をお聞かせ下さい。

私は下町生まれ下町育ちなのですが、人のつながりや町の感じが似ているなあと思えるところが幾つもあります。ですから、結婚してここで働くようになってすんなりと受け入れました。とても暖かい感じのするこの街がこれからも変わらないでもらいたいと思います。

(企画・取材・編集：
広報班 笹隈、宗正)



「割烹・大浜」

武蔵野市吉祥寺本町1 - 30 - 16
TEL 0422 - 21 - 4154

「割烹・魚はま」

武蔵野市八幡町1 - 1 - 32
TEL 0422 - 52 - 3760

まちづくり 活動日誌

- 2/4 第5回むさしのまちづくりシンポジウム(NPO主催)
/ 市民会議室
- 2/18 商業地活性化部会
「自由が丘探訪」
- 3/11 まちづくり研修旅行
「真鶴町のまちづくり」
- 4/10 役員会 / 消費生活センター
- 4/25 役員会 / 消費生活センター
- 5/9 役員会 / 消費生活センター
- 5/27 平成18年度総会
/ 消費生活センター

事務局便り

前回のニュース発行から3ヶ月も経過してしまいました。この間には、研修旅行や部会活動もあり、年度末も重なって何かとあわただしく時が過ぎました。昨年度は市の補助金を得てNPO主催で3回のシンポジウムを開催しました。18年度は補助金をもらえるかわかりませんが、同様にシンポジウムを企画していきます。その他イベントも引き続き行う予定です。奮ってご参加ください。また、事務局をお手伝いいただける方も引き続き募集しています。
本ニュースで塩澤さんが書かれていますが、市内でも開発の動きが盛んです。

真鶴では町民全体で町の美を守ろうと活動していました。市民で武蔵野のまちづくりを進めることがこの会の設立目的です。市民の声を定例会や行事を通じて発信していきますので積極的にご参加ください。

27日の定例会で任意団体のまちづくり会議がNPOに吸収合併され、活動が一本化される予定です。今まで以上にご支援をよろしくおねがいします。

禁無断転載 転送可能

発行：市民まちづくり会議
・むさしの

事務局

FAX : 0422-53-7092

mail : matimati@parkcity.ne.jp

郵便振替口座 00180-0-388549